

2024 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 水本 千尋

〈研修概要〉

本研修は 2025 年 2 月 25 日から 3 月 5 日までの 9 日間で実施されました。初めの 4 日間はホーチミン市のチョーライ病院で研修を受け、後半の 5 日間はフエ医科薬科大学の学生と交流し、附属病院で研修を受けました。

〈研修参加の目的〉

本研修に参加した目的は 2 つあります。1 つ目は、日本とベトナムの医療の違いを学ぶことです。ベトナムの医療、患者接遇、効率的な検査のための工夫について学び、理想とする診療放射線技師像を明確化したいと考えました。2 つ目は、英語力の向上です。昨夏にフエ医科薬科大学の学生が本学を訪れて交流した際、私は先方の学生の英語が聞き取れず、翻訳機を頼りにコミュニケーションをとるしかありませんでした。自分の英語力の低さを痛感し、本研修で毎日英語に触れて英語力を向上させたいと思いました。そして、翻訳機を介さず英語でコミュニケーションをとれるようになり、非日本語話者患者にも対応できる診療放射線技師になりたいと思いました。

〈研修で学んだこと〉

チョーライ病院

チョーライ病院はベトナム南部地域最大の医療機関です。病院内は検査待ちの患者で非常に混雑していました。1 日の検査数は一般撮影が 1500 人、CT が 500 人以上と非常に多く、検査が終わった患者が検査室に残っていても次の患者が入室し、次々に検査をしていました。多忙な業務の傍ら私たちのことを常に気にかけてくださり、頸椎ヘルニアや肝臓の画像所見について教えていただきました。英語で質問内容を伝えられないことや、英語を聞き取れないことが沢山ありましたが、先方の技師の方々は私たちに優しく向き合い、私が理解できるまで諦めずに答えてくださいました。多忙な中でも相手のことを思いやり、行動している姿に尊敬の念を抱きました。この経験から患者の気持ちに寄り添い、思いやりのある診療放射線技師になりたいと強く感じました。また、研修中に CT 装置が壊れてしまいましたが、技師の方がすぐに修理していました。想定外の事態にも臨機応変に対応している姿に感銘を受けました。私は想定外の事態への臨機応変な対応が苦手なため、診療放射線技師として臨床で働くことに不安があ



▲チョーライ病院での
病院実習



▲Farewell party

ります。臨床業務で想定外の事態が生じた際は、チョーライ病院の技師の方のように冷静かつ迅速な判断に基づいて臨機応変に対応できるようになりたいと思いました。

フエ医科薬科大学

一般撮影では先方の先生が胸部と腹部のポジショニングについて説明してくださり、実際にポジショニングを経験しました。ポジショニングの際に英語でうまく指示を伝えられず、ボディランゲージを駆使しました。ポジショニングに必死になるあまり「動かないでください」と一言伝えることを失念してしまい、ポジショニング後すぐに動いてしまい、再ポジショニングをすることが多々ありました。目の前の業務への集中も大切ですが、心に余裕を持って自身の行動を俯瞰できる診療放射線技師になりたいと思いました。

CT と MRI では、診療放射線技師の監視のもと、学生が4～5人のチームを組み、意見を出し合い協力して検査を進めていました。チームで役割分担し、患者接遇、ポジショニング、静脈ルート確保など、診療放射線技師と遜色なく様々な業務を遂行していました。1人で業務を遂行できることも大切ですが、仲間と協力して各自の業務負担を軽減できれば心に余裕が持て、想定外の事態にも臨機応変に対応しやすくなると思いました。CT では、装置に搭載されたAI が撮影範囲を決定していました。AI は便利ですが患者間違いなどの人間由来のミスはカバーできないため、AI によって業務の負担が軽減しても常に緊張感を持って検査することが大切だと学びました。

〈 まとめ 〉

本研修への参加を通し、失敗を恐れず行動し、何事にも積極的に挑戦する大切さを学びました。交流会で披露するダンスを自ら提案し、パーティーでステージに立って先方の学生と楽しく歌って踊るなど、研修参加前には想像できなかった行動を自らの意思で積極的に選択できるようになりました。また、先方の学生は実習中にも関わらず、技師の方と同じ仕事量を手際よく行い、絶えず質問をしていました。この姿を目の当たりにし、自分の学びに対する意識の低さを痛感しました。今後は、学びに意欲的に取り組みたいです。



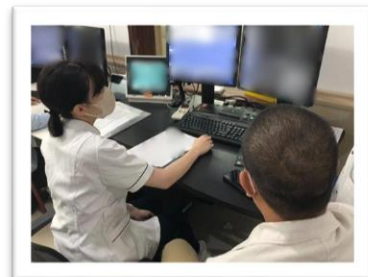
▲アオザイを着て観光



▲フエの学生と交流

〈 謝辞 〉

病院研修を受け入れてくださったチョーライ病院、フエ医科薬科大学の皆様にご心より感謝申し上げます。また、海外研修を引率してくださった玉木長良学長、霜村康平先生、本谷崇之先生、石田翔太先生、本研修をサポートしてくださった職員の方々に深く感謝いたします。



▲フエ医科薬科大学付属病院での
病院実習 1



▲フエ医科薬科大学付属病院
での病院実習 2